



【大津赤十字病院 副院長】

血液内科  
つじ まさあき  
辻 将公

## 副院長の就任ご挨拶

令和4年4月1日付をもちまして副院長に就任いたしました辻 将公でございます。副院長という大役を拝命し、その重責に身の引き締まる思いがしております。微力ではございますが、地域医療の発展のため努めたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

最初にこの場をお借りしまして自己紹介をさせていただきます。私は忍者で有名な甲賀市の出身です。地元の中学を卒業して膳所高校に入学しました。膳所高校へは片道1時間半かけて通っていましたが、田舎をとろとろ走る草津線での通学は今となってはよき思い出です。膳所高校を卒業して、医師を志し京都大学医学部に入学しました。大学では軟式テニス部に入りました。もう長らくラケットを握っておりませんが、このころの先輩後輩の先生方とは今も交流があります。1992年京都大学を卒業した後、京都大学医学部附属病院内科で1年間研修をして、大津赤十字病院内科で当時副院長の古川裕夫先生の下、3年間研修をしました。その後京都大学大学院に入学し、血小板における情報伝達経路の研究に従事しました。大学院卒業後は血液内科医として京都桂病院、市立長浜病院に勤務して2006年大津赤十字病院に赴任しました。赴任後は大野辰治前副院長の下で、血液疾患や自己免疫疾患の診療に従事してまいりました。特に、滋賀県では遅れていた造血幹細胞移植に力を注ぎました。専門は血液学全般です。また、これとって趣味はありませんが、敢えて言えばス

ポーツ観戦でしょうか。鼻負チームの勝敗に一喜一憂する日々を過ごしています。

現在、医療を取り巻く情勢はめまぐるしく変化し、さらにコロナ禍を脱し切れていない社会情勢のなかで、よりの確な判断が求められています。地域医療も例外ではなく、住民の皆様が病院に求めることも社会情勢に応じて変化しています。このような中、当院の理念にある、「人道と博愛の精神」という根幹はぶれることなく、地域の皆様に質の高い、きめ細やかな医療を提供することが大事であると考えています。

しかし、地域医療の実践には地域の先生方はじめ医療関係の方々のご協力が欠かせません。滋賀で生まれ育った経験を活かし、先生方のご指導を仰ぎながら地域医療に貢献できますよう努力する所存です。

なにとぞよろしくお願いいたします。

### プロフィール

卒 年：平成4年（京都大学）  
専門資格：インフェクションコントロールドクター（ICD）  
日本血液学会認定血液指導医・専門医  
日本内科学会認定内科医・指導医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
近畿血液地方会評議員  
日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医  
専門分野：血液学、免疫学、造血幹細胞移植

《お問い合わせ》  日本赤十字社 大津赤十字病院 地域医療連携課

〒520-8511 滋賀県大津市長等一丁目1番35号 TEL.077-522-8535(直通) FAX.077-522-4385(直通)  
予約受付 月曜日から金曜日(平日) 午前8時30分から午後8時00分まで / 土曜日 午前9時00分から午後1時00分まで



【大津赤十字病院 副院長】

呼吸器外科  
かたくら ひろみち  
片倉 浩理



## 副院長の就任ご挨拶

本年4月1日より副院長を拝命いたしました。2005年に当院に赴任させていただき、以後呼吸器外科医として皆様にお世話になりながら現在に至りました。赴任当時、現在皆様に向けてこのような文章を書くことになるとは予想だにしておりませんでした。人生とは本当にわからないものだ、というのが今の私の率直な思いであります。

私は1967年に大阪市で生を受け、高校3年生まで過ごしました。野球が好きで中学から高校卒業まで野球部に所属していました。高校2年の時に腰椎椎間板ヘルニアになり1年間部活動ができない状況になり、大腿から踵にかけて激痛が走る辛い思いを経験しました。少し話が逸れますが、小学生の頃に父親が虫垂炎を拗らせて腹膜炎になり、下町の救急病院で手術をしていただき一命をとりとめたことがありました。その一事に感銘を受け、以後外科医になりたいという気持ちが私の心を離れませんでした。

中学から野球ばかりしていたのですが、一年でも早く医者になりたいとの私の心を見透かした高校3年生の時の担任の先生から「愛媛大学を受けないか?」と進路指導を受けました。浪人やむなしと思っていたのですが、幸運にも合格させていただきました。中高と野球をやって分かったことが一つありました。それは“自分には野球の才能が無い”ということでした。それで大学生の6年間はラグビーをすることにしました。今から考えても野球よりラグビーの方が私にはまだ向いていたように感じます。元々、縁もゆかりもない愛媛県ではありましたが、この6年間は貴重な経験となりました。

愛媛大学を卒業後、クラブの先輩が京都大学胸部疾患研究所外科に進んでいたのを追いかけて入局しました。この教室は自由

な気風で、他大学から来た私にも京大卒業生と分け隔てることなく愛情を持って優しく、時には厳しく各先輩方からご指導いただきました。大学病院、日本赤十字社和歌山医療センター、市立岸和田市民病院、京都桂病院で外科医として経験を積ませていただいた後、1999年より京都大学の大学院に進学させていただきました。肺癌の基礎研究を希望し翌2000年から2003年まで愛知県岡崎市にある生理学研究所に留学させていただき、レトロウイルスベクターを用いた癌細胞への遺伝子導入の基礎研究を行いました。2004年に学位を取得し翌2005年に当院へ赴任させていただきました。

自分一人では何もできないですが、周りの人と協調することによって可能性が広がって行くことを野球やラグビーを通じて学びました。京大の呼吸器外科の同門の先輩後輩の方々にも医師としての心得を教えていただきました。こういう事を土台にして当院での診療に真摯に取り組んでおります。今後も皆さんにお世話になりながら、少しでも多く患者さんに満足していただけるような診療活動を続けて行きたいと祈念しております。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### プロフィール

卒 年：平成4年（愛媛大学）  
専門資格：日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医・評議員  
日本胸部外科学会認定医  
日本外科学会指導医・外科専門医  
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医・専門医  
日本 DMAT 隊員  
日本気管支学会認定医  
日本肺癌学会評議員  
専門分野：肺腫瘍、呼吸器外科全般